

## 【調査結果(単純集計データ)】 < 2人以上の世帯 >

(注) 回答欄に併記された計数は、断りの無い限り、選択肢形式の場合は回答比率(%、小数第2位四捨五入)、数値記入形式の場合は、合計項目の回答世帯を分母とする平均値(単位未満四捨五入)を示す。回答0(ゼロ)の項目は 0 で示す。なお、無回答者を掲記していないため、単数回答項目について、その回答比率の合計は必ずしも 100 とならない。

### あなたのご家庭の状況についてお聞きします。

(a) あなたのご家庭の世帯人数は、自分も含めて何人ですか。( は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
-	25.3	23.3	26.9	13.6	7.7	3.2

(b) 主に家計を支えている方は、満年齢で何歳ですか。( は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60~64歳	65~69歳	70歳以上
3.0	14.2	21.4	27.2	13.4	9.8	10.9

(c) 主に家計を支えている方のご職業は、次のうちどれにあたりますか。( は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
農林漁業者	自営商工 サービス業主	事務系職員	労務系職員	管理職	自由業	その他
3.0	17.0	18.7	20.8	11.1	3.5	24.9

(d) ご家庭の総収入は年間どのくらいになりますか。( は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
収入は ない	300万円 未満	500万円 未満	750万円 未満	1,000万円 未満	1,200万円 未満	1,200万円 以上
1.2	21.9	28.9	22.4	11.8	3.9	4.3

〔付〕上記(c)については、以下にしたがってご回答ください。

- 1 農林漁業者 …… 農業、林業、畜産、園芸、漁業に従事している人
- 2 自営商工・ …… 従業員 10 人以下の商店主、30 人以下の工場主・役員・飲食店主・支配人、棟梁などの  
サービス業主 自営職人、牧場主、養殖場主、その他のサービス業主
- 3 事務系職員 …… 定収入を得ている勤め人で、事務的・技術的職種に従事している人。教職員(除く大学  
教授以上・教頭以上)、雇用医(除く医長以上)、雇用技術者、一般事務員、外交員、販  
売員、集金人、記者、アナウンサー、巡査部長、警部補、自衛隊員(下士官・尉官)
- 4 労務系職員 …… 現業労働に従事している人および小企業従業員。一般工員、従業員 10 人以下の商店  
員、雇用職人、運転士、守衛、雑役、自由労務者、水夫、工員・鉦員、配達員、消防員、  
巡査、自衛隊員(兵)、パートナー、行商人、露天商
- 5 管理職 …… 課長以上の勤め人、会社役員(除く商工自営)、大学教授以上の学者、教頭以上の教職  
員、団体役員、自衛隊員(佐官以上)
- 6 自由業 …… 開業医、医長以上の勤務医、芸術家、著述業、弁護士、裁判官、公認会計士、宗教家、  
プロスポーツ家、船長、水先案内人、芸能人、代議士
- 7 その他 …… パート・アルバイト、フリーター、無職、年金・利子生活者、学生、保護世帯

## 【 世帯（ご家庭）についての設問（16ページまで）】

（\*主に家計を支えている方などにご相談のうえ、ご記入ください。単身世帯の方は、ご自身がご回答ください）

### 問1

あなたのご家庭では、(a)過去1年間に手取り収入（税引後）の何%（%未満は四捨五入）ぐらいを貯蓄<sup>(注)</sup>しましたか。

また、(b)年間手取り収入のうちボーナスや臨時収入（税引後）からは何%（%未満は四捨五入）ぐらいを貯蓄しましたか（商・工業や農・林・漁業等事業のための貯蓄や、給与振込、口座振替など一時的にしか口座にとどまらないような預貯金は含めないでお答えください。以下の質問についても同様です）。

該当する番号に 印をつけてお答えください。

（注）この調査でいう貯蓄とは金融資産（問3に記載の金融商品）であり、土地・住宅等の実物資産は含みません。

（記入例）

例えば、年間手取り収入100万円のうち  
5万円を貯蓄した場合 → 

5
---

 %  
12万5千円を貯蓄した場合 → 

13
----

 %  
とご記入ください（%未満は四捨五入）。

- |     |                      |      |   |      |      |
|-----|----------------------|------|---|------|------|
| (a) | {                    | 1    | 年間手取り収入の <table border="1"><tr><td>12</td></tr></table> % ぐらいを貯蓄した。   | 12   | 68.4 |
|     |                      | 12   |   |      |      |
| 2   | 年間手取り収入から貯蓄を全くしなかった。 | 24.3 |   |      |      |
| (b) | {                    | 1    | ボーナスや臨時収入の <table border="1"><tr><td>25</td></tr></table> % ぐらいを貯蓄した。 | 25   | 37.1 |
|     |                      | 25   |   |      |      |
|     |                      | 2    | ボーナスや臨時収入から貯蓄を全くしなかった。  | 17.5 |      |
| 3   | ボーナスや臨時収入がなかった。      | 33.1 |   |      |      |

### 問2

あなたのご家庭では、現在、貯蓄を保有していますか。（ は1つ）

1  
貯蓄を保有している。  
74.3

2  
貯蓄を保有していない。  
22.8

### 問3

(a) あなたのご家庭では、現在の金融商品別残高（現金を除き、外貨建金融商品を含めます）およびその合計額はどのくらいですか。

	現在の残高					記入に当たっての注意	
	億	千万	百万	十万	万円		
1 預貯金			4	4	8	郵便貯金は除く。外貨預金（円換算額）を含めます。	86.8
うち決済用預金				8	1	当座預金と利息のつかない普通預金。	38.2
うち定期性預金			2	6	5	期間の定めのある預金。	54.5
2 郵便貯金			2	0	7		65.4
うち定期性貯金			1	6	2	定額貯金、積立貯金など期間の定めのある貯金。	48.7
3 金銭信託・貸付信託				1	5	ビッグ、ヒット、スーパーヒットを含む。	3.9
4 生命保険・簡易保険			1	8	9	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、既に給付を受けた分や掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	55.5
5 損害保険				2	9	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、既に給付を受けた分や掛け捨ての保険、年金型商品は除く。	21.6
6 個人年金保険				6	3	これまでに積み立てた掛け金の総額。ただし、既に給付を受けた分や厚生年金、国民年金、公務員共済など公的年金の掛け金は除く。	23.0
7 債券				2	3	時価 現在の相場 でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。外貨建分（円換算額）を含めます。	5.4
8 株式				9	1	従業員持株制度による株式を含む。時価 現在の相場 でお答えください。外貨建分（円換算額）を含めます。	20.6
9 投資信託				2	7	時価 現在の相場 でお答えください。ご不明なら額面でお答えください。MRF(マネーリザーブファンド 証券総合口座用ファンド)、MMF(マネージメントファンド)、REIT(不動産投資信託)および外貨建分（円換算額）を含めます。	9.3
10 財形貯蓄				2	8	一般財形、財形年金、財形住宅の合計額。	15.6
11 その他金融商品					9	抵当証券、金貯蓄口座、オプション取引など。	1.8
合計（1～11の総計）		1	1	2	9	金融商品別残高（1～11）、合計のいずれにおいても、外貨建金融商品（円換算額）を含めます。	100.0
<参考> 確定拠出年金			3	3	9	国民年金基金連合会に申し込んだ個人型年金（企業型年金は該当しません）で、これまでに拠出した総額。上記の合計額には含みません。	

(外貨建金融商品を保有しているご家庭にお尋ねします。)

(b) (a)でお答え頂いたもののうち、現在、保有している外貨建金融商品の残高(記入時点の為替相場による円換算額)を下表にご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の外貨建金融商品残高合計			3	8	9

(注)問3(a)に示す平均残高については、貯蓄を保有しない世帯を含む平均値。欄外に記した数値は、合計項目ないし何れかの商品項目に金額回答した世帯の全数を分母とし、各商品の金額回答世帯を分子とする保有率(%、小数点第2位四捨五入)を示す。ただし、「(参考)確定拠出年金」および「現在の外貨建金融商品残高合計」については、各項目の金額回答世帯の平均値。

(全員にお聞きします。)

## 問4

あなたのご家庭での金融商品の保有希望について、お尋ねします。今後、1～2年の間に貯蓄を増やしたり、保有を始めてみようと考えている金融商品があれば、その番号に  をつけてください。(○はいくつでも)

	今後、増やしてみたい または、保有を始めてみたい
1 預貯金(郵便貯金を除く)	46.3
2 郵便貯金(簡保は除く)	29.3
3 信託(ビッグ・ヒットなど)	2.2
4 積立型保険商品(生保・簡保・損保)	7.6
5 個人年金保険	10.7
6 公共債(国債など)	6.0
7 公共債以外の債券(社債など)	0.6
8 株式	10.3
9 株式投資信託	3.4
10 公社債投資信託(MMFなど)	1.5
11 外貨建金融商品(外貨預金、外債、外貨建投信など)	4.3
12 不動産投資信託	1.3

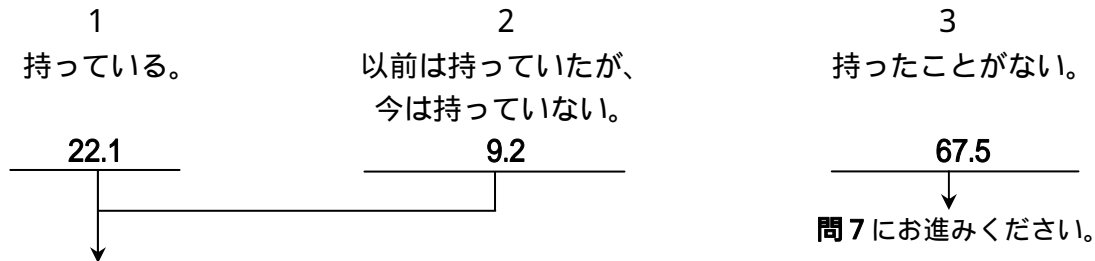
## 問5

あなたのご家庭では、貯蓄する商品を決める場合に、どのようなことに最も重点をおいで選びますか。（ は1つ）

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| 1 利回りが良いから。               | 11.2 |
| 2 将来の値上がりが期待できるから。        | 3.6  |
| 3 元本が保証されているから。           | 33.9 |
| 4 取扱金融機関が信用できて安心だから。      | 15.1 |
| 5 商品内容が理解しやすいから。          | 2.0  |
| 6 現金に換えやすいから。             | 5.1  |
| 7 少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから。 | 21.8 |
| 8 その他                     | 3.0  |

## 問6

- (a) 金融商品の中には、株式や外貨預金のように、株価や為替相場の変動によっては元本割れするものがあります。あなたのご家庭では、こういった商品をお持ちですか。(は1つ)



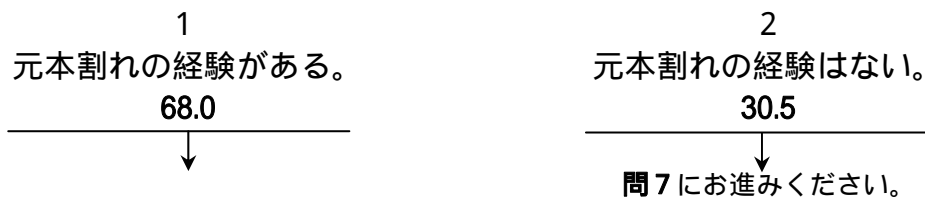
(b)と(c)へお進みください。

(前問(a)で1、2と回答した方にお聞きします。)

- (b) このような金融商品を購入した時点では、元本割れする可能性について、主にどのようなお考えで購入していましたか。(は1つ)

- |   |      |
|---|------|
| 1 相場の変動によって、元本割れがあるかもしれないことを、自分自身が納得して購入した。 | 71.3 |
| 2 現実には元本割れの危険はないと金融機関や他人から聞かされて、それを信じて購入した。 | 13.8 |
| 3 元本割れする可能性は考えずに購入した。                       | 11.8 |

- (c) 運用していた資金が元本割れした経験はありますか。(は1つ)



(1と回答した方にお聞きします。)

- (d) 元本を割り込むことになった運用結果について、どのようにお考えですか。

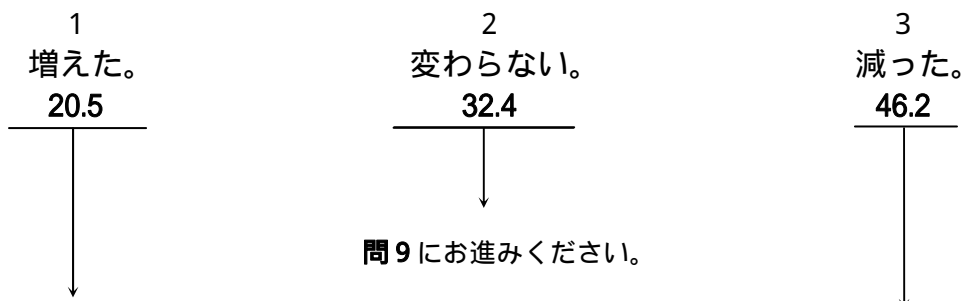
(は1つ)

- |   |      |
|---|------|
| 1 自分の相場についての予想が外れたのであるから、それは仕方がない。                  | 70.5 |
| 2 自分が相場の変動によって元本割れするリスクをよく理解していなかったのであるから、それは仕方がない。 | 15.9 |
| 3 相場の変動によって元本割れするリスクを金融機関が十分に説明しなかったためだ。            | 7.6  |
| 4 著しい誤解を招く広告、勧誘を金融機関から受けたためだ。                       | 5.0  |

(全員にお聞きします。)

## 問7

あなたのご家庭では、現在の貯蓄残高は1年前と比べて増えましたか、あるいは減りましたか。(は1つ)



## 問8

(前問で1と回答した方にお聞きします。)(前問で3と回答した方にお聞きします。)

(a) 「増えた」理由は何ですか？ (はいくつでも)	(b) 「減った」理由は何ですか？ (はいくつでも)
1 定例的な収入が増加したから。 38.8	1 定例的な収入が減ったので貯蓄を取り崩したから。 51.0
2 定例的な収入から貯蓄する割合を引き上げたから。 30.0	2 土地・住宅購入費用の支出があったから。 13.0
3 配当や金利収入があったから。 7.9	3 耐久消費財(自動車、家具、家電等)購入費用の支出があったから。 29.2
4 土地・住宅等の実物資産の売却による収入があったから。 1.3	4 こどもの教育費用、結婚費用の支出があったから。 30.5
5 相続、退職金等による臨時収入があったから。 7.5	5 旅行、レジャー費用の支出があったから。 11.1
6 株式、債券価格の上昇により、これらの評価額が増加したから。 6.4	6 株式、債券価格の低下により、これらの評価額が減少したから。 4.1
7 扶養家族が減ったから。 9.4	7 扶養家族が増えたから。 4.6
8 その他 20.3	8 その他 13.3

(全員にお聞きします。)

## 問9

あなたのご家庭では、どのような目的で貯蓄をしていますか。( は3つまで)

- |                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 1 病気や不時の災害のときに備えるため。             | 66.8 |
| 2 こどもの教育資金にあてるため。                | 30.8 |
| 3 こどもの結婚資金にあてるため。                | 8.8  |
| 4 住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金にあてるため。 | 16.9 |
| 5 老後の生活資金にあてるため。                 | 58.7 |
| 6 耐久消費財(自動車、家具、家電等)の購入資金にあてるため。  | 13.2 |
| 7 旅行、レジャーの資金にあてるため。              | 13.5 |
| 8 納税資金にあてるため。                    | 5.7  |
| 9 遺産として子孫に残してやりたいから。             | 3.6  |
| 10 とくに目的はないが、貯蓄していれば安心なため。       | 25.3 |
| 11 その他                           | 3.1  |

## 問10

あなたのご家庭では、現在どのくらいの貯蓄残高を目標にしていますか。下表に数値をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
貯蓄目標残高		2	0	5	5



## 問 1 1

(a) あなたのご家庭では、買物代金、旅行代金、公共料金等家計支出の資金決済手段として最近はどのようなものを主に利用していますか。

( は2つまで)

1	2	3	4	5
現金 (紙幣および 硬貨)	クレジットカード	デビット・カード	口座振替	その他
82.2	22.6	0.2	61.7	0.8

(b) 資金決済額全体の何割程度を現金で決済していますか。下表に数値をご記入ください。

現金決済額の割合  割

(c) あなたのご家庭では、現金の残高は平均してどのくらいありますか。

百万	十万	万円
<input type="text"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="9"/>

## 問 1 2

あなたの家計では、現在、借入金はありますか。ただし、月賦払いの未払金やリボルビング方式<sup>(注)</sup>による未払金は対象に含め、1～2か月後に決済するクレジットカード利用ツケ買いによる未払金は除きます。( は1つ)

(注)リボルビング方式とは、あらかじめ設定した借入金額の利用限度枠内であれば何回でも利用でき、最初に決めた一定額を毎月、返済する借入方式のこと。



問 1 5 へお進みください。

(前問で1と回答した人にお聞きします。)

## 問 1 3

現在の借入金残高とそのうちの住宅ローン残高をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計		1	4	8	4
うち住宅ローン残高		1	1	2	7

## 問 1 4

あなたは、どのような目的で借入れを行いましたか。

次のうちから借入目的を選び、該当する番号に 印をつけてください。

( は3つまで)

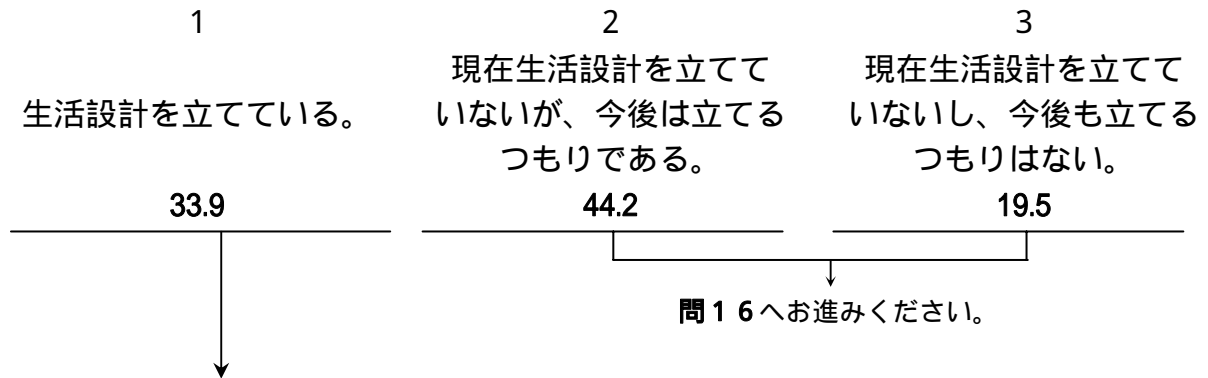
- |    |                                   |      |
|----|-----------------------------------|------|
| 1  | 医療費や災害復旧資金にあてるため。                 | 2.8  |
| 2  | こどもの教育、結婚資金にあてるため。                | 11.3 |
| 3  | 住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金にあてるため。    | 59.8 |
| 4  | 日常の生活資金にあてるため。                    | 11.6 |
| 5  | 耐久消費財(自動車、家具、家電等)の購入資金にあてるため。     | 23.6 |
| 6  | 旅行、レジャーの資金にあてるため。                 | 2.5  |
| 7  | 株式等金融資産への投資資金にあてるため。              | 0.6  |
| 8  | 土地建物(マイホームは除く)等の実物資産への投資資金にあてるため。 | 6.6  |
| 9  | 相続税対策のため。                         | 1.3  |
| 10 | その他                               | 12.1 |

(全員にお聞きします。)

## 問 1 5

(a) あなたのご家庭では、将来のことを考えて生活設計を立てていますか。

( は1つ)



(前問で1と回答した方にお聞きします。)

(b) 何年くらい先まで考えて生活設計を立てていますか。( は1つ)

1	2	3	4	5
1 ~ 2 年先まで	3 ~ 5 年先まで	1 0 年先まで	2 0 年先まで	2 0 年以上先まで
5.1	25.4	37.8	18.6	11.8

(c) あなたは、生活設計と一緒に、将来の必要となる資金を貯める運用計画まで立てていますか。( は1つ)

1	2	3
資金計画を立てている	現在は資金計画を立てていないが、今後は立てるつもりである。	現在資金計画を立てていないし、今後も立てるつもりはない。
50.7	36.5	9.3

(全員にお聞きします。)

## 問 1 6

あなたのご家庭では、現在どのような住居にお住まいですか。( は1つ )

持ち家あり	持ち家なし
1 ご自身が購入した家屋マンション 50.7	3 同居している親または親族の家 8.7
2 相続または贈与を受けた持家 20.6	4 民間の賃貸マンション・アパート、借家 12.3
	5 公団公営の賃貸アパート 2.7
	6 官舎、社宅 1.4
	7 間借、その他 0.6

問19、問20へお進みください。

(前問で3～7と回答した人にお聞きします。問17～18にご回答下さい。)

## 問 1 7

マイホームを取得していないご家庭にお尋ねします。

あなたのご家庭では、主に家計を支えている方が何歳くらいの時にマイホームを取得する予定ですか。( は1つ )

1 20歳代	0.9
2 30歳代	10.0
3 40歳代	8.9
4 50歳代	4.6
5 60歳以上	2.4
6 親からの相続等によるので、いつになるかわからない。	19.9
7 マイホームの取得については目下のところ考えていない。	28.4
8 将来にわたりマイホームを取得する考えはない。	18.4

## 問 1 8

マイホームを取得する場合、購入価格と自己資金目標額はどの位ですか。

( はそれぞれ1つ )

(a)購入価格		(b)自己資金	
1 1,500万円未満	9.0	1 250万円未満	19.0
2 2,500万円未満	23.9	2 500万円未満	20.7
3 3,500万円未満	17.9	3 750万円未満	5.2
4 4,500万円未満	5.4	4 1,000万円未満	13.0
5 4,500万円以上	3.3	5 2,000万円未満	9.0
6 未定	26.1	6 3,000万円未満	5.4

(主に家計を支えている方の年齢が満60歳未満のご家庭にお聞きします。)



### 問19

あなたのご家庭では、老後の生活費として、毎月最低どれくらい必要と思えますか(現在の物価水準を基準にお答えください)。

百万 十万 万円

	2	8
--	---	---

また、老後の生活資金として、主に家計を支えている方の年金支給時に準備しておけばよい貯蓄残高は、最低どれくらいだとお考えですか。

億 千万 百万 十万 万円

老後の生活資金		2	0	2	6
---------	--	---	---	---	---

(主に家計を支えている方の年齢が満60歳以上のご家庭にお聞きします。)



### 問20

あなたのご家庭では、生活費として、毎月最低どれくらい必要ですか。

百万 十万 万円

	2	6
--	---	---

(全員にお聞きします。)

### 問21

あなたの家計全体のバランスについて、以下の中から最も近い感じのものをお選び下さい。(は1つ)

- 1 住宅ローン等の借入れはほとんどなく、一方で資産(持家もしくは金融資産等)はそこそこあるので、資産と負債のバランスに関する不安はない。 22.0
- 2 住宅ローン等の借入れがあるものの、資産(持家もしくは金融資産等)の値下がりはそれほど大きくないため、資産と負債のバランス面で大きな不安は抱えていない。 14.2
- 3 住宅ローン等の借入れがある一方、資産(持家もしくは金融資産等)の値下がりが激しく、資産と負債のバランスが崩れて不安を抱えている。 12.7
- 4 借入、資産ともほとんどないので、資産と負債のバランスに関する不安はない。 24.2
- 5 その他 19.8

## 問 2 2

あなたのご家庭では、老後の暮らし（高齢者は、今後の暮らし）について、経済面でどのようになるとお考えですか。（ は1つ）

1	2	3
それほど心配していない。	多少心配である。	非常に心配である。
18.8	47.3	32.0
↓		↓
（前問で1と回答した人にお聞きします。）		（前問で2または3と回答した人にお聞きします。）

### 問 2 3

それほど心配していない理由は、次のうちどれですか。

（ はいくつでも）

- |    |                                    |      |
|----|------------------------------------|------|
| 1  | 十分な貯蓄があるから。                        | 10.6 |
| 2  | 退職一時金があるから。                        | 17.3 |
| 3  | 年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険があるから。        | 62.6 |
| 4  | 生活の見通しが立たないほど物価が上昇するとは考えられないから。    | 17.5 |
| 5  | 十分な貯蓄はないが、老後に備えて着々と準備（貯蓄など）しているから。 | 30.0 |
| 6  | 再就職などにより収入が得られる見込みがあるから。           | 6.2  |
| 7  | 不動産収入（家賃、地代等）が見込めるから。              | 13.2 |
| 8  | 子どもなどからの援助が期待できるから。                | 5.0  |
| 9  | 親などからの遺産が見込まれるから。                  | 5.7  |
| 10 | その他                                | 9.5  |

### 問 2 4

多少心配である、非常に心配である理由は次のうちどれですか。

（ はいくつでも）

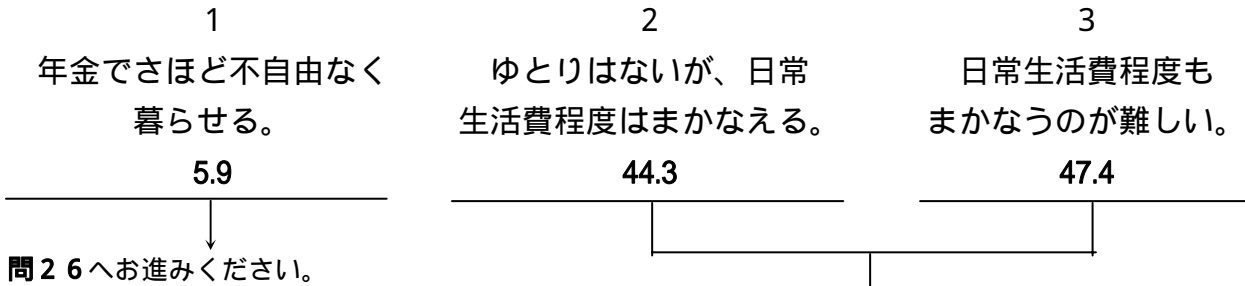
- |    |                                      |      |
|----|--------------------------------------|------|
| 1  | 十分な貯蓄がないから。                          | 71.5 |
| 2  | 退職一時金が十分ではないから。                      | 24.7 |
| 3  | 年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険が十分ではないから。      | 69.1 |
| 4  | 生活の見通しが立たないほど物価が上昇することがあり得ると考えられるから。 | 19.4 |
| 5  | 現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備（貯蓄など）していないから。  | 40.3 |
| 6  | 再就職などにより収入が得られる見込みがないから。             | 14.1 |
| 7  | 家賃の上昇により生活が苦しくなると見込まれるから。            | 2.5  |
| 8  | マイホームを取得できる見込みがないから。                 | 3.1  |
| 9  | 子どもなどからの援助が期待できないから。                 | 18.3 |
| 10 | その他                                  | 6.2  |

(全員にお聞きします。)

## 問 2 5

年金について、お聞きします。

(a) あなたのご家庭では、年金（公的年金・企業年金を含み、個人年金は除きます）で老後の必要資金をまかなえると思いますか。（は1つ）



(前問で2または3と回答した人にお聞きします。)

(b) その理由についてどのようにお考えですか。主な理由をお答えください。

(は2つまで)

1	物価上昇等により費用が増えていくとみているから。	22.2
2	年金が支給される年令が引き上げられるとみているから。	31.8
3	年金が支給される金額が切り下げられるとみているから。	61.5
4	高齢者への医療費用の個人負担が増えるともみているから。	31.3
5	高齢者への介護費用の個人負担が増えるともみているから。	21.1
6	その他	7.6

(c) 不足分をどうやってまかなおうとお考えですか（または、現在まかっていますか）。主な対応をお答えください。（は2つまで）

1	年金支給後も働いてまかなうつもり。	41.5
2	貯蓄でまかなうつもり。	31.1
3	こどもからの援助でまかなうつもり。	4.6
4	年金支給後の生活水準を引き下げるとつもり。	34.7
5	まだ、先のことなので考えていない。	27.5
6	その他	8.8

(主に家計を支えている方の年齢が満60歳以上のご家庭にお聞きします。)

## 問26

現在の生活費は、どのような収入源によっていますか。(は3つまで)

1	就業による収入	43.0
2	公的年金	67.1
3	企業年金、個人年金、保険金	19.7
4	貯蓄の取り崩し	25.3
5	利子配当所得	1.7
6	不動産収入(家賃、地代等)	8.9
7	こどもなどからの援助	6.1
8	国や市町村などからの公的援助	0.9
9	その他	3.8

(お子さんのいるご家庭にお聞きします。)

## 問27

あなたのご家庭では、お子さんに渡しているこづかいは、月平均で1人当たりどのくらいの金額ですか。

学齢区分ごとに、下表に金額をご記入ください。

	十	万	千	百	十	円
小学生(1・2年)				9	0	4
小学生(3・4年)			1	0	2	1
小学生(5・6年)			1	2	8	5
中学生			2	8	7	7
高校生			6	8	1	3



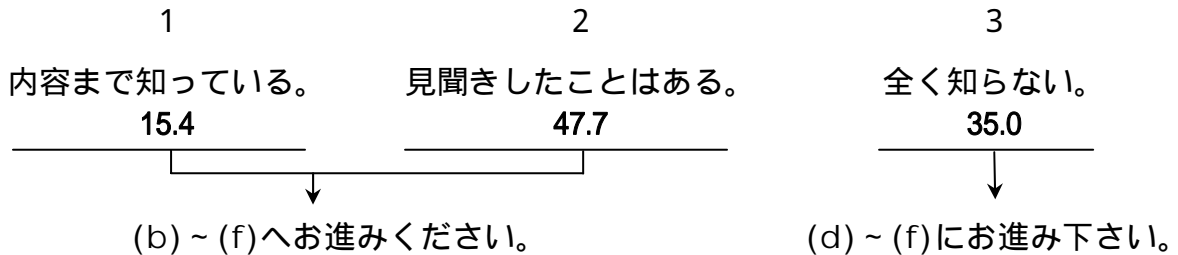
**【 個人の方についての設問（最後のページまで）】**

（\*これ以降については調査対象になられた方のご意見等をご記入ください。）

（全員にお聞きします。）

**問 2 8**

(a) 預金者の保護を目的とした「預金保険制度」があります。あなたはこの制度をご存じですか。（○は1つ）



（前問(a)で1または2と回答した方にお聞きします。）

(b) あなたは、以下の預金保険制度の保護の内容のうち、どれをご存知ですか。

（はいくつでも）

- |   |  |      |
|---|--|------|
| 1 | 全額保護される預金を除き、1金融機関につき、1人当たり「元本 1,000万円までとその利息」が保護される。                                    | 92.2 |
| 2 | 「無利息」、「要求払い」、「決済サービスを提供できること」という3条件を満たす決済用預金（当座預金および利息のつかない普通預金）は、全額保護される。               | 27.8 |
| 3 | 金融機関が破綻した場合、全額保護される預金を除き、「元本 1,000万円までとその利息」を超える分については、破綻した金融機関の財産の状況により、一部カットされる可能性がある。 | 49.1 |
| 4 | 金融機関が破綻した場合、その破綻した金融機関に同一の預金者が有する複数の預金口座は合算される。  | 32.6 |
| 5 | 国内に本店のある預金取扱い金融機関が預金保険制度に加入しており、日本国内に本店を有していない外国の銀行の在日支店は、わが国の預金保険制度の対象外である。             | 10.7 |
| 6 | 外貨預金や投資信託は、預金保険制度の対象ではない。  | 21.5 |

(c) 預金保険制度についての知識、情報を主にどこから得ましたか。

( は3つまで)

1	テレビ番組、新聞記事、雑誌記事	89.9
2	インターネット	3.6
3	金融機関の窓口などで入手したパンフレット	17.9
4	セミナーや講演会	1.8
5	金融機関からの説明	11.8
6	家族や友人との会話	18.4
7	学校の授業や講義	0.5
8	ビデオ教材	-
9	その他	4.2

(d) 当座預金や利息のつかない普通預金は決済用預金として、全額保護されていますが、この口座の利用についてお伺いします。( は1つ)

1	2	3
口座を作った。	口座を作る予定がある。	口座を作る予定はない。
13.2	6.8	72.6

(e) 証券投資家の保護を目的とした「投資者保護基金」という制度があります。同制度によって、顧客の預かり資産が正しく分別管理されていない場合等においても、原則として投資家1人当たり預かり資産1,000万円までが保護されます。あなたはこの制度をご存じですか。( は1つ)

1	2	3
内容まで知っている。	見聞きしたことはある。	全く知らない。
3.9	25.9	65.0

(f) 保険契約者の保護を目的とした「保険契約者保護機構」という制度があります。同制度は、契約内容に応じ、責任準備金<sup>(注)</sup>の一定割合を保護しています。あなたはこの制度をご存じですか。( は1つ)

(注) 責任準備金とは、契約者が払い込んだ保険料から、保険金支払いに備えて保険会社が積み立てた積立金のことです。

1	2	3
内容まで知っている。	見聞きしたことはある。	全く知らない。
3.7	25.2	66.4

## 問 2 9

あなたが金融商品を選ぶとき、高い収益が得られるチャンスと元本割れするかもしれないリスクの関係について、どちらの考え方に近いですか。（○は1つ）

	どA ちに ら近 かい と 言 え ば	ど言 ちえ らな とい も	どB ちに ら近 かい と 言 え ば	
A				B
元本保証が約束されていなくても、そのリスクに見合う収益性が得られるチャンスがあれば、その金融商品で運用しようと思う。	8.0	32.0	53.4	元本保証が約束されていなければ、その金融商品では資金を運用しようと思わない。

## 問 3 0

金融商品の選択に関する「自己責任」という考え方について、どのように受け止めますか。

運用する金融商品（A～F）を具体的に考えて、もっとも近い考え方を選んでください。

- 1 自分で選んだ金融商品については、自分で責任を持つのは当然である。
- 2 どちらとも言えない。
- 3 自分で選んだ金融商品だから自分で責任を持てと言われても困る。

（ はそれぞれ1つ）

	自分で責任を持つのは当然である	どちらとも言えない	自分で責任を持てと言われても困る
A 預金（外貨預金は除く）	26.3	20.3	40.9
B 外貨預金	36.7	36.1	9.9
C 株式	49.3	26.2	7.7
D 公社債投信（MMF、中国ファンド等）	32.1	37.6	12.1
E 保険（掛け捨て型を除く）	18.7	26.7	38.4
F 金融自由化の過程で開発された新しいタイプの金融商品（いわゆるハイテク商品やデジタルタイプ商品など）	32.3	38.4	10.4

### 問3 1

あなたは、ご自分の貯蓄などをより安全なものにするため、何かなさいましたか。

(はいくつでも)

1	金融商品の安全性に関する情報を収集した。	10.3
2	経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えた。	13.2
3	預金保険が適用される商品に預け替えた。	2.4
4	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した。	16.0
5	1つの金融機関に預けた定期預金などの1,000万円を超える部分を、全額保護される決済用預金へ、預け替えた。	2.2
6	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超える部分で、他の資産を購入した。	1.7
7	現金で持つことにした。	4.3
8	何もしていない。	54.8
9	その他	5.2

### 問3 2

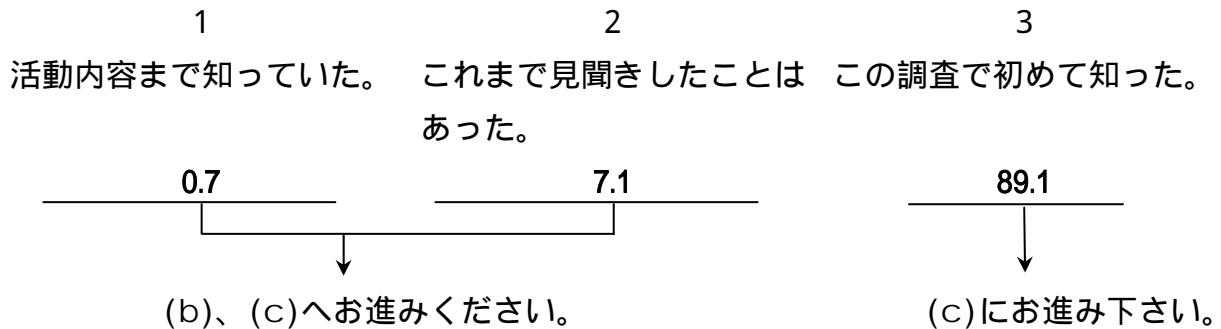
取引金融機関を決める場合、どのような理由から選びますか。(は3つまで)

1	近所に店舗やATM(現金自動預け払い機)があるから。	75.6
2	店舗網が全国的に展開されているから。	22.8
3	インターネットによるサービス・取引などが充実しているから。	4.0
4	金融商品の品揃えが豊富で選択の幅が広いから。	2.1
5	より収益性の高い金融商品を販売しているから。	2.2
6	各種手数料が他の金融機関より割安だから。	9.5
7	金融アドバイザーとしての相談窓口が充実しているから。	4.1
8	経営が健全で信用できるから。	32.6
9	勧誘員が熱心で印象が良いから。	4.2
10	テレビCM、ポスター、キャラクター商品などの印象が良いから。	0.9
11	営業時間が長かったり、土日に営業したりしているから。	9.8
12	個人向けローンが充実しているから。	2.0
13	その他	9.3

### 問 3 3

最後に、私ども金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。私どもの活動について、率直なご意見を聞かせください。

(a) 金融広報中央委員会についてご存知ですか。（ は1つ）



(b) 金融広報中央委員会が行なっている以下の事業について、ご存知ですか、または見聞きしたことがありますか。

（ はいくつでも）

1	リーフレット、冊子類の作成・配布	31.1
2	講演会、講座（キャラバンなど）、学習会の開催	10.4
3	インターネット・ホームページによる広報	17.4
4	通信講座の開催	4.6
5	各種メディア（新聞・雑誌・テレビなど）による広報	49.0
6	学校向けの教育・広報活動	5.0
7	調査統計資料の作成・配布	35.3
8	その他	2.9
	（具体的に、 )	

(c) あなたが、金融広報中央委員会に期待される事業についてお聞かせください。

( はいくつでも )

	社会人向け	学校向け
1 リーフレット、冊子類の作成・配布	33.7	9.1
2 講演会、講座(キャラバンなど)、学習会の開催	13.3	7.2
3 インターネット・ホームページによる広報	24.1	7.4
4 通信講座の開催	7.1	2.7
5 メディア(新聞・雑誌・テレビなど)による広報	54.9	8.0
6 学校向けの教育・広報活動	5.7	28.5
7 調査統計資料の作成・配布	28.2	4.7
8 その他 (対象も含め、具体的に、 )	2.3	1.2

~ 以上で設問はすべて終了です。ご協力誠にありがとうございました ~